

重点課題	重点目標	目標達成に向けた取り組み(担当課)	評価の観点	評価	総合評価	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方針
1 生徒指導の充実	①他人を思いやる優しさや豊かな人間性の育成に努める。	①心の健康調査を実施し、活用する。(保健環境)	調査結果が生徒理解・生徒指導に役だったとする担当が80%以上であった。 調査結果が生徒理解・生徒指導に役だったとする担当が70%以上であった。 調査結果が生徒理解・生徒指導に役だったとする担当が50%以上であった。 調査結果が生徒理解・生徒指導に役だったとする担当が50%未満であった。	A B C D	A	・かねてから言われているように、生徒との面談は生徒理解にとって最も有効であることが、多くの教員で共有されていることが明らかになった。	学期初めや定期考査後など、期間を定めて面談が行いやすい学校行事をするなど、体制づくりが必要である。担任だけに負担がいていないか、周囲が常に検証する必要があると思われる。
		②生徒との面談を実施し、生徒理解を深める。(保健環境)	面談が生徒理解・生徒指導に有効であったとする担当が80%以上であった。 面談が生徒理解・生徒指導に有効であったとする担当が70%以上であった。 面談が生徒理解・生徒指導に有効であったとする担当が50%以上であった。 面談が生徒理解・生徒指導に有効であったとする担当が50%未満であった。	A B C D			
		③教育相談・特別支援教育の研修を実施する。(保健環境)	研修が教育相談体制の充実に役だったとする職員が80%以上であった。 研修が教育相談体制の充実に役だったとする職員が70%以上であった。 研修が教育相談体制の充実に役だったとする職員が50%以上であった。 研修が教育相談体制の充実に役だったとする職員が50%未満であった。	A B C D			
	②社会のルールや校則を厳守させ、規範意識の向上を図る。	①定期的に服装・頭髪検査を実施する。(生徒指導)	違反者数が0になった。 全体で違反者数が10人未満になった。 違反者数が前年度とほぼ同数であった。 違反者数が前年度より増加した。	A B C D	B	・学校においては、保護者との連携を密にして生活指導(遅刻、頭髪、服装等)にあたっていると保護者の82%が回答しているが、現状を鑑みて、指導・支援を拡充していく必要性を感じている。	・平成26年度の遅刻延数は、2,524人で昨年度より444人減少した。しかし、減少はしているものの、10月以降急激に増加している点については改善点が必要であると考えている。さらに多遅刻者の生活態度の改善に向けて、多角的な指導と総合的な支援を実施していきたい。 ・保護者と連携した通学指導を実施し、交通マナーの向上を図ることができた。一方で、生活安全委員によるマナーアップ運動を計画通りに実施することができなかった。
		②毎日、通学指導(挨拶・身だしなみ・通学マナー)を行い遅刻者数の減少を目指す。(生徒指導)	遅刻者数が全校生の前年度の遅刻者数より10%以上減少した。 遅刻者数が全校生の前年度の遅刻者数を下回った。 遅刻者数が全校生の前年度の遅刻者数を上回った。 遅刻者数が全校生の前年度の遅刻者数より10%以上増加した。	A B C D			
		③学校の生徒指導の方針を明確に示し、教職員の共通理解を図る。(生徒指導)	教職員の指導目標に対する達成度が90%以上であった。 教職員の指導目標に対する達成度が80%以上であった。 教職員の指導目標に対する達成度が50%以上であった。 教職員の指導目標に対する達成度が30%以上であった。	A B C D			
		④登校時の交通マナーの向上と、自転車マナーの順守を図る。(生徒指導)	定期的に生活委員が駐輪マナーを呼びかけ、大きく効果を上げた。 定期的に生活委員が駐輪マナーを呼びかけ、効果を上げた。 不定期ではあるが生活委員が駐輪マナーを呼びかけ、効果を上げた。 不定期の実施となり、効果が上がらなかった。	A B C D			
		⑤教職員・PTA・生活安全委員で協力し、交通安全の啓発のための安全指導・交通マナーアップキャンペーンを行う。(生徒指導)	教職員・PTA・生活安全委員で協力し、計画通りに実施することができた。 定期的に実施することができた。 不定期ではあるが、実施することができた。 実施することができなかった。	A B C D			
		⑥長期休業中に校外巡視を実施する。(生徒指導)	年3回以上実施し、問題行動等未然防止に成果をあげた。 年2回実施した。 年1回実施した。 全く実施できなかった。	A B C D			
		⑦補導センター・警察に毎月訪問し、情報交換に努める。(生徒指導)	十分意見交換ができ、生徒指導に活かすことができた。 毎月訪問をし、十分な意見交換ができた。 毎月訪問したが、十分な意見交換ができなかった。 毎月訪問できなかった。	A B C D			
③生徒理解を深め、個に応じた生徒指導に努める。	①問題行動等を起こした生徒や、好きな学校生活のできていない生徒の保護者に対する面談を実施する。(生徒指導)	保護者と共通理解を図り、生徒に対する支援に成果を上げた。 保護者との共通理解は図れたが、生徒に対する支援の成果は不十分であった。 保護者との共通理解は図れたが、生徒に対する支援の成果を上げられなかった。 保護者との共通理解を図ることができなかった。	A B C D	A	・問題行動を起こした生徒に対し、保護者や関係機関と連携して対応できた。次年度は未然に防げるような対応を展開していきたい。		
	②いじめ防止等のためにアンケートを実施する。(生徒指導)	年2回以上実施し、いじめ等を未然防止に成果をあげた。 年2回実施した。 年1回実施した。 全く実施できなかった。	A B C D				

重点課題	重点目標	目標達成に向けた取り組み(担当課)	評価の観点	評価	総合評価	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方針
2 環境教育・安全教育の推進	①生命を尊重し、心身の健康と環境問題への意識の高揚をはかり、自他の安全を守る能力を育成する。	①心肺蘇生・AED訓練を実施し、応急手当の知識や技術の習得を図る。(保健環境)	心肺蘇生・AED訓練に参加し、知識と技術を得ることができた教職員が80%以上であった。 心肺蘇生・AED訓練に参加し、知識と技術を得ることができた教職員が70%以上であった。 心肺蘇生・AED訓練に参加し、知識と技術を得ることができた教職員が50%以上であった。 心肺蘇生・AED訓練に参加し、知識と技術を得ることができた教職員が50%未満であった。	A B C D	B	・本年度は撫養キャンパス最後の一年となり、キャンパス利用生徒の減少と職員数の減少により昨年度までの環境整備状況の現状維持に努めた。その中でも起震車体験や煙体験など避難訓練の充実をはかり、そのことが教職員にも生徒にもある程度伝わったと実感できる。	・心身が健康な状況の中で生徒も教職員も新校舎で新年度を迎えられるよう、日々の生活習慣や健康維持活動に努められるよう促していきたい。
		②健康について関心を持たせ、疾病異常の早期発見のため、健康診断の受診や事後措置の徹底を図る。(保健環境)	健康診断受診率が100%であった。 健康診断受診率が95%以上であった。 健康診断受診率が90%以上であった。 健康診断受診率が90%未満であった。	A B C D			
		③掲示板の充実を図る。(保健環境)	定期的に更新され、見やすい掲示板になっている。 定期的に更新されてはいるが、やや見づらく感じる。 期限切れの案内が掲示されているのを時折見かける。 ほとんど更新されておらず、乱雑な掲示がされている。	A B C D			
		④保健だよりやホームルームでの啓発等あらゆる機会を捉えてAEDの設置場所について周知を図る。(保健環境)	AEDの設置場所・使用方法を知っている生徒が80%以上であった。 AEDの設置場所・使用方法を知っている生徒が70%以上であった。 AEDの設置場所・使用方法を知っている生徒が50%以上であった。 AEDの設置場所・使用方法を知っている生徒が50%未満上であった。	A B C D			
		⑤家庭と連携し、校内の学習環境を整える。(総務)	学習環境向上の取組により現状の改善が見られた。 PTA役員と共に実践に学習環境の向上に取り組んだ。 PTA役員による学習環境向上への対策が立てられた。 PTA役員が教室の現状を確認できた。	A B C D			
	②校内美化に努め、情操豊かな学校環境づくりに努める。	①毎日の清掃や大掃除を積極的に行わせ、学習環境を自ら整えさせる。(保健環境)	意欲的に清掃に取り組んだ生徒が80%以上であった。 意欲的に清掃に取り組んだ生徒が70%以上であった。 意欲的に清掃に取り組んだ生徒が60%以上であった。 意欲的に清掃に取り組んだ生徒が60%未満であった。	A B C D	B	・新校舎が地域防災の拠点となり、また学校版新環境ISOの新登録が必要となるなど、保健環境課をとりまく環境も大きく変貌し、地域の期待や生徒の実情にあわせた事業整備が必要になることが予想される。いくつかの行事や取り組みに集中して礎を築いていきたいと考える。	
		②ホームルームにおいてゴミの分別に対する意識の高揚を図る。(保健環境)	ゴミの分別ができている生徒が90%以上であった。 ゴミの分別ができている生徒が80%以上であった。 ゴミの分別ができている生徒が70%以上であった。 ゴミの分別ができている生徒が70%未満であった。	A B C D			
		③ゴミ処理の意識の高揚を図る。(保健環境)	ゴミのポイ捨てが校内のほとんどの場所でなくなり、余計なゴミの持込も少ない。 ゴミはほとんどゴミ箱に捨てられてはいるが、余計なゴミの持込が少々目立つ。 ゴミのポイ捨ても少々目立つし、余計なゴミの持込もやや多い。 ゴミのポイ捨てもたいへん目立ち、余計なゴミの持込もたいへん多い。	A B C D			
	③防災・減災教育を推進し、災害時の実践力を育成する。	①防災訓練を実施し、防災体制の確立を図る。(保健環境)	全教職員の80%以上が協働体制が確立していると感じている。 全教職員の70%以上が協働体制が確立していると感じている。 全教職員の60%以上が協働体制が確立していると感じている。 協働体制が確立していると感じている教職員が60%未満であった。	A B C D	B		
		②防災教育を実施し、防災意識を高める。(保健環境)	防災意識が高まった生徒が80%以上であった。 防災意識が高まった生徒が70%以上であった。 防災意識が高まった生徒が60%以上であった。 防災意識が高まった生徒が60%未満であった。	A B C D			

重点課題	重点目標	目標達成に向けた取り組み (担当課)	評価の観点	評価	総合評価	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方策
3 特別活動の推進	①ホームルーム活動・生徒会活動や学校行事を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する。	①生徒会を中心としたあいさつ運動や清掃奉仕活動が計画的に企画・運営され、多くの生徒が活動に参加するように支援する。(特別活動)	生徒会や専門委員会が中心となり企画運営ができ、定期的を実施した。生徒会や専門委員会の一部の生徒で実施した。実施はしたが、不定期であった。実施しなかった。	A B C D	B	・あいさつ運動は生徒会役員が中心となり、月初めに実施できた。生徒会役員のあいさつへの意識に変化が出てきた。 ・生徒、保護者、教職員とも学校行事については楽しみにして積極的に参加できていたと80～90%が評価している。 ・生徒総会のあり方について再考する必要がある。 ・HR役員は各専門委員会で適宜役割を果たせた。 ・部活動に関して、二極化が出ている。	・キャンパスが一つになるので、あいさつ運動をはじめ学校祭や各学校行事も各専門委員会等、どう実施するかを話し合っていく必要がある。
		②生徒会を中心とした生徒主体の球技大会・学校祭が企画・運営されるように支援する。(特別活動)	生徒会が中心となり、自発的に企画運営でき、各行事が円滑に行われた。生徒会が中心となり、各行事を実施できた。生徒会が中心となり企画したがあまり協力を得られず運営が円滑ではなかった。生徒会や専門委員会が機能しなかった。	A B C D			
		③学校行事において、個人の個性が活かせ、積極的にできるように支援する。(特別活動)	一人一人の個性が十分に発揮された。一人一人の個性が概ね発揮された。一部の生徒のみの活動であった。生徒の個性が発揮されず、活気が感じられなかった。	A B C D			
		④専門委員会活動の活性化を図るため、各専門委員会の役割を明確にし責任を果たせるように支援する。(特別活動)	役割を自覚し、その責任を果たせた。80%以上 役割は自覚し、その責任は概ね果たせた。70%以上 役割は自覚していたが、あまりその責任を果たすことができなかった。 役割の自覚が十分でなく、その責任を果たせなかった。	A B C D			
	②部活動を推進し、スポーツ活動において質の高い専門教育を行い、競技力の向上を図るとともに、スポーツ振興に寄与する人材を育成する。	①部活動の意義について理解し、生徒の自主的・自発的活動を支援する。(特別活動)	部活動の年間計画に沿って活動ができ、その目標を達成することができた。年間計画に沿った活動がほぼできたが、目標の達成には及ばなかった。年間計画通りの活動があまりできず、目標の見直しの必要性を感じた。年間計画に沿った活動ができず、各部の方針や目標を達成することができなかった。	A B C D	A		・総合学科の生徒の部活導入部推進を図る必要がある。
		②部活動を推進するため、関係機関との連携や、指導方法について工夫し、競技力の向上を図る。(特別活動)	昨年度実績より競技力が向上した。 昨年度実績とほぼ同等の競技力であった。 昨年度実績よりやや競技力が低下した。 昨年度実績より大幅に競技力が低下した。	A B C D			
	③ボランティア活動を積極的に行い、豊かな人間性を育てる。	①自分自身の生活する学校や地域社会において起こる課題の解決に対して、自分自身が自発的・主体的にその問題を解決していこうとする。	ボランティア活動の意義を理解し、主体的・積極的に参加でき、継続できている。周りがやっていたので活動には参加した。ボランティア活動に参加しただけであった。やる気も見せることなく、何もなかった。休んだ。	A B C D	B		・ボランティア活動を推進するとともに地域と連携した活動を推進していく。

重点課題	重点目標	目標達成に向けた取り組み(担当課)	評価の観点	評価	総合評価	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方針		
4 学習指導の充実	①基礎的・基本的の指導を徹底し、基礎学力の向上定着を図る。	①生徒が理解しやすいように配慮した授業をする。 (教務)	生徒の80%以上が授業が分かると感じている。 生徒の70%以上が授業が分かると感じている。 生徒の60%以上が授業が分かると感じている。 生徒の60%未満が授業が分かると感じている。	A B C D	C	・基礎的・基本的な事項の指導が十分とはいえ、約1/3の生徒が半数以上の教科で授業が分からないという結果となった。もっと生徒に合った教材・授業の方策を進めて欲しい。 資格検定の合格率は昨年度に比べ若干であるが増加した。より一層合格率の向上に努めて欲しい。	・教員の意識改革、授業力(スキル)の向上を図ることにより生徒の学習意欲を高め学習の習慣化に繋げる。進路実現のため資格検定の合格率をさらに向上させるよう、必要な時間の確保に努める。 ・今後も生徒の満足できる教育課程・時間割を作成する。しかし、キャンパスが1つとなりソフト面・ハード面が今まで通り実施できないことが予想される。1つ1つの課題を解決しながら編成を進める。		
		②家庭での学習時間を確保させる。 (進路指導)	学習時間が1日平均2時間以上であった。 学習時間が1日平均1時間以上2時間未満であった。 学習時間が1日平均30分以上1時間未満であった。 学習時間が1日平均30分未満であった。	A B C D					
		②始業チャイムを生徒とともに聞く。 (教務)	毎授業チャイムを教室で聞いた教員が90%以上であった。 毎授業チャイムを教室で聞いた教員が80%以上であった。 毎授業チャイムを教室で聞いた教員が70%以上であった。 毎授業チャイムを教室で聞いた教員が70%未満であった。	A B C D				・生徒の時間割の満足度が80%を超えているのは非常に評価ができる。これからも生徒の興味・関心・進路に応じた選択科目の設定を進めて欲しい。	・学習週間・面接週間の取組が良かったと感じている生徒が約70%と少し低いように感じられる。更なる指導体制・指導方法の工夫改善を進めることにより、生徒の学習の習慣化と学習意欲を引き出して欲しい。
		③定期的に学力向上プランの検証・改善を行い、重点目標の達成を推進する。 (教務)	学力向上重点項目の各評価の年度末検証の評価平均値が4点中3.5以上であった。 学力向上重点項目の各評価の年度末検証の評価平均値が4点中3以上であった。 学力向上重点項目の各評価の年度末検証の評価平均値が4点中2.5以上であった。 学力向上重点項目の各評価の年度末検証の評価平均値が4点中2.5以下であった。	A B C D					
		④各教科において、資格や検定受検を積極的に薦め、指導・支援する。 (各教科)	昨年度に比べ合格率が5%以上増加した。 昨年度に比べ合格率が若干ではあるが増加した。 昨年度と合格率ほぼ同率であった。 昨年度より合格率は下がった。	A B C D					
	②幅広い選択科目を設定し、生徒一人一人の興味・関心・進路に応じた履修指導を推進する。	①個別の相談体制を充実させ、個々の生徒に応じた時間割の作成に努める。 (教務)	生徒の90%以上が十分な相談体制のもと時間割を作成できたと感じている。 生徒の80%以上が十分な相談体制のもと時間割を作成できたと感じている。 生徒の70%以上が十分な相談体制のもと時間割を作成できたと感じている。 生徒の70%未満が十分な相談体制のもと時間割を作成できたと感じている。	A B C D	B	・学習週間・面接週間の取組が良かったと感じている生徒が約70%と少し低いように感じられる。更なる指導体制・指導方法の工夫改善を進めることにより、生徒の学習の習慣化と学習意欲を引き出して欲しい。			
		②生徒の個性・進路に合った科目選択をさせる。 (教務)	生徒の時間割満足度が90%以上であった。 生徒の時間割満足度が80%以上であった。 生徒の時間割満足度が70%以上であった。 生徒の時間割満足度が70%未満であった。	A B C D					
	③生徒の学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫改善を図る。	①学習週間を設け、学習の習慣化を図り、面接を効果的に利用する。 (教務)	生徒の90%以上が学習週間・面接週間の取組が良かったと感じている。 生徒の80%以上が学習週間・面接週間の取組が良かったと感じている。 生徒の70%以上が学習週間・面接週間の取組が良かったと感じている。 生徒の70%未満が学習週間・面接週間の取組が良かったと感じている。	A B C D	B	・学習週間・面接週間の取組が良かったと感じている生徒が約70%と少し低いように感じられる。更なる指導体制・指導方法の工夫改善を進めることにより、生徒の学習の習慣化と学習意欲を引き出して欲しい。			
		②全員が学力向上に向けて個人目標を設定し、取り組みを推進する。 (教務)	教員評価における学習指導の評価B以上が全教員の90%以上であった。 教員評価における学習指導の評価B以上が全教員の80%以上であった。 教員評価における学習指導の評価B以上が全教員の70%以上であった。 教員評価における学習指導の評価B以上が全教員の70%以上であった。	A B C D					
		③教員相互間の授業見学および研究授業を実施し、指導方法向上を目指す。 (教務)	教員の全員が指導方法向上に向けた取り組みを行った。 教員の90%以上が指導方法向上に向けた取り組みを行った。 教員の80%以上が指導方法向上に向けた取り組みを行った。 教員の80%未満しか指導方法向上に向けた取り組みを行えなかった。	A B C D					

重点課題	重点目標	目標達成に向けた取り組み (担当課)	評価の観点	評価	総合評価	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方策
5 進路指導の徹底	①生徒一人ひとりの学力や適性などを的確に把握し、個に応じたきめ細やかな指導を徹底する。	①面談を通じて生徒の学力・適性・個性を把握する。 (進路指導)	面談を活用し、十分な生徒理解と、進路に対するアドバイスができた。 面談を活用し、おおむね生徒理解ができた。 面談を実施したが、満足していく生徒理解ができなかった。 面談を実施できなかった。	Ⓐ B C D	A	個人面談や、各種データを活用し、生徒一人ひとりの個性の把握は概ねできている状況である。また生徒に対する進路実現支援にもほとんどの生徒が満足感を示している。本年度劇的に改善した高卒求人を受け就職内定状況も100%に近く、国公立大学へは、スポーツ科学科第一期生より1名、総合学科より3名が合格するなど、就職・進学ともに近年では好結果と呼べる実績であった。	①個人面談における進路指導に対する生徒の満足度は80.6%、教員の満足度は88.9%、概ね良好な数値である。 ②進路指導関係諸会議に対する職員満足度は82.2%。100%を目指しより有効な情報共有を追求したい。 ③進路決定率は2月23日現在98%。正社員採用に届かない生徒が若干名。進学希望者ではやはり看護系が苦戦した。さらに充実したキャリア教育＋進路支援を追求したい。 ④国公立大、難関私大への同格者は4名。近年では突出した成果である。生徒の希望にもよるが、次年度以降も5名以上目標が妥当であり、従来より継続している早期対策指導を初め生徒個別の指導が必要である。 ⑤学校の進路支援体制に対する生徒の満足度は80.1%だが、1年次から順に75.5%→77.5%→88.6%と上昇した。
		②進路対策会議を実施する。 (進路指導)	必要な情報を共有し、進路指導に十分活用することができた。 必要な情報を共有することはできず、十分活用することができなかった。 必要と感じる情報を共有することができなかった。 進路対策会議を実施しなかった。	Ⓐ B C D			
		③進路決定率100%を目指す。 (進路指導)	進路決定率が100%であった。 進路決定率が95%であった。 進路決定率が90%であった。 進路決定率が90%未満であった。	Ⓐ B C D			
		④国公立大、難関私立へ複数名を合格させる。 (進路指導)	5名以上が合格した。 3名以上が合格した。 1名以上が合格した。 合格者がいなかった。	Ⓐ B C D			
		⑤生徒一人一人の進路実現に向けての支援体制を拡充する。 (進路指導)	支援体制についての生徒の80%以上が満足した。 支援体制についての生徒の70%以上が満足した。 支援体制についての生徒の50%以上が満足した。 支援体制についての生徒の50%未満しか満足しなかった。	Ⓐ B C D			
	②スポーツ科学科・総合学科の特性を考慮したキャリア教育を推進する。	①インターンシップを活用する。 (企画総務)	参加生徒の80%以上が満足した。 参加生徒の70%以上が満足した。 参加生徒の50%以上が満足した。 参加生徒の50%未満しか満足しなかった。	Ⓐ B C D	B	インターンシップ大学訪問に関してはインターンシップや大学訪問以外にも体験的な体験活動を通じて生徒のキャリア教育を推進してもらいたい。 発表会に関して産学/総合発表会のあり方も工夫が必要である。	①来年度は一つのキャンパスで体育科・総合学科が同じ日にインターンシップ、大学訪問等を行う予定になっている。地元の企業と関係を密にしながら、新しいインターンシップ先の開拓に努める必要がある。 ②総合学科におけるの産業社会と人間や課題研究発表会はより充実した研究や発表が望まれる。保護者や学校関係者への公開も次年度以降考えていくべきである。 ③今年度以降もスポーツ学科卒業生に対する進路情報の提供が必要である。
		②総合学科における「産社」・「総学」の内容を充実させる。 (企画総務)	生徒の80%以上が「産社」・「総学」の授業に満足した。 生徒の70%以上が「産社」・「総学」の授業に満足した。 生徒の50%以上が「産社」・「総学」の授業に満足した。 生徒の50%未満しか「産社」・「総学」の授業に満足しなかった。	Ⓐ B C D			
		③総合学科における「産社」全体発表会、総学の「課題研究発表会」を充実させる。 (企画総務)	生徒の80%以上が発表会に満足した。 生徒の70%以上が発表会に満足した。 生徒の50%以上が発表会に満足した。 生徒の50%未満しか発表会に満足しなかった。	A B C D			
		④スポーツ科学科の進路に対して大学・企業の開拓を行う。 (企画総務)	進路情報の提供について、スポーツ科学科生徒の80%以上が満足した。 進路情報の提供について、スポーツ科学科生徒の70%以上が満足した。 進路情報の提供について、スポーツ科学科生徒の50%以上が満足した。 進路情報の提供について、スポーツ科学科生徒の50%未満しか満足しなかった。	Ⓐ B C D			
	③進路設計や進路選択に必要な情報提供を組織的・計画的に行い、生徒一人ひとりの勤労観・職業観の育成を図る。	①進路講演会、講話、ホームルーム活動を通じて生徒の進路観育成に努める。 (進路指導)	進路情報の提供について、生徒の80%以上が満足した。 進路情報の提供について、生徒の70%以上が満足した。 進路情報の提供について、生徒の50%以上が満足した。 進路情報の提供について、生徒の50%未満しか満足しなかった。	Ⓐ B C D	C	学校での進路情報提供に満足している生徒は77.5%で、やや物足りない数値である。「進路のしおり」の活用状況は、「少し活用した」以上の生徒が44.4%に対し、「あまり活用しなかった」以下の生徒が55.5%。内容の再検討が必要である。	
		②進路のしおりを活用する。 (進路指導)	進路のしおりを利用した生徒が80%以上であった。 進路のしおりを利用した生徒が70%以上であった。 進路のしおりを利用した生徒が50%以上であった。 進路のしおりを利用した生徒が50%未満であった。	A B C D			

重点課題	重点目標	目標達成に向けた取り組み (担当課)	評価の観点	評価	総合評価	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方策
6 人権教育推進	①学校の教育活動を通して人権尊重の教育・道徳教育を展開する	①各教科・科目・ホームルーム活動・「産業社会と人間」総合的な学習の時間等全ての教育活動に人権尊重の理念を定着させる。 (人権教育)	各教科の人権教育の学習評価で、ABの合計が80%以上であった。 各教科の人権教育の学習評価で、ABの合計が70%以上であった。 各教科の人権教育の学習評価で、ABの合計が60%以上であった。 各教科の人権教育の学習評価で、ABの合計が50%以上であった。	A B C D	A	・産業社会と人間の中に人権学習の視点を取り入れ、外部講師を招聘し授業を行うとの新しい取り組みを実施し、効果を挙げた。その成果は、県人研大会で発表し、高評価を得た。 ・生徒に人権に興味をもたせるため、新聞等の最新記事を用いた「人権を考える日」は効果を挙げた。	・本年度の「産業社会と人間」等の事業の継続の課題を、企画総務課や学年主任と連携を取りながら図っていく。 ・キャンパス統合で、教職員意識の一体化を教職員研修等で図っていく必要がある。 ・社会問題研究部の活動も、キャンパス統合により本格的に活性化させる。 ・PTA総会や三者面談で人権啓発をさらに図る。
		②人権学習ホームルーム活動を柱として、人権や命の大切さを根底に捉えた人権教育や道徳教育を推進する。 (人権教育)	人権学習ホームルーム活動に満足している生徒が70%以上であった。 人権学習ホームルーム活動に満足している生徒が60%以上であった。 人権学習ホームルーム活動に満足している生徒が50%以上であった。 人権学習ホームルーム活動に満足している生徒が40%以上であった。	A B C D			
		③人権意見作文や研修・講演会等の感想を書くことで、人権意識の向上を目指す。 (人権教育)	全校生徒の90%以上が感想文を提出した。 全校生徒の80%以上が感想文を提出した。 全校生徒の70%以上が感想文を提出した。 全校生徒の60%以上が感想文を提出した。	A B C D			
	②地域や家庭と連携した人権教育を推進する	①教職員間の人権意識向上を目指した研修会を実施する。 (人権教育)	研修後、今後の人権教育の向上に役立つと感じた教職員が80%以上であった。 研修後、今後の人権教育の向上に役立つと感じた教職員が70%以上であった。 研修後、今後の人権教育の向上に役立つと感じた教職員が60%以上であった。 研修後、今後の人権教育の向上に役立つと感じた教職員が50%以上であった。	A B C D	A	・携帯等による人権侵害啓発を県消費者情報センターの講師を招き徹底的に行い効果を挙げた。 ・保護者等への人権啓発はもう少し工夫しなければならない。 ・社会問題研究部の活動を活発にする必要がある。	・新校舎は防災拠点の役割を果たす。そこで防災と人権という新たな教職員・生徒の意識を持たせる研修会を実施していく。
		②鳴門市人権文化祭や県内各種人権問題の大会や研修会に積極的に参加する。 (人権教育)	鳴人祭、各種人権大会等に参加した教職員が全体の60%以上であった。 鳴人祭、各種人権大会等に参加した教職員が全体の50%以上であった。 鳴人祭、各種人権大会等に参加した教職員が全体の40%以上であった。 鳴人祭、各種人権大会等に参加した教職員が全体の40%以下であった。	A B C D			
	③自主活動の活性化に努める	①人権委員会、人権意見発表会、校内自主活動、「人権を語る高校生の集い」等への生徒の積極的参加を促す。 (人権教育)	校内外の各種人権関係行事の生徒の参加数は、60名以上であった。 校内外の各種人権関係行事の生徒の参加数は、50名以上であった。 校内外の各種人権関係行事の生徒の参加数は、40名以上であった。 校内外の各種人権関係行事の生徒の参加数は、40名以下であった。	A B C D			

重点課題	重点目標	目標達成に向けた取り組み (担当課)	評価の観点	評価	総合評価	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方針
7 読書活動の推進	①生徒の自主的な読書活動を推進する。	①学級文庫を充実させる。 (図書情報)	学級文庫に対する生徒の満足度が80%以上であった。 学級文庫に対する生徒の満足度が70%以上であった。 学級文庫に対する生徒の満足度が60%以上であった。 学級文庫に対する生徒の満足度が60%未満であった。	A B C D	C	・本年度より評価項目に入った目標であるが、図書館、新聞の活用に関しては目標を達成することができなかった。また、学級文庫に関しても生徒の興味を引くことができていない。目標として掲げたのであれば、積極的な推進が必要である。	・職員への呼びかけを積極的に行い図書館と新聞の授業での活用を推進したい。また、HRでの活用方法や、新聞の記事の紹介等を積極的に行い、多くの場面で図書館、新聞の活用を行ってもらえるよう働きかけることが必要であると思う。
	②新聞を活用した学習活動を推進する。	①HR活動において新聞を活用する。 (図書情報)	新聞を活用した授業を行ったクラスが80%以上であった。 新聞を活用した授業を行ったクラスが70%以上であった。 新聞を活用した授業を行ったクラスが60%以上であった。 新聞を活用した授業を行ったクラスが60%未満であった。	A B C D	C		
		②各授業において新聞を活用する。 (図書情報)	新聞を活用した授業を行った教員が80%以上であった。 新聞を活用した授業を行った教員が70%以上であった。 新聞を活用した授業を行った教員が60%以上であった。 新聞を活用した授業を行った教員が60%未満であった。	A B C D			
	③学校図書館の活用を促進する。	①HRの時間に図書館を利用する。 (図書情報)	図書館を利用したクラスが80%以上であった。 図書館を利用したクラスが70%以上であった。 図書館を利用したクラスが60%以上であった。 図書館を利用したクラスが60%未満であった。	A B C D	C		

重点課題	重点目標	目標達成に向けた取り組み (担当課)	評価の観点	評価	総合評価	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方策
8 開かれた学校作りの推進	①オープンスクール、公開授業などの教育活動の公開を推進する。	①公開授業を年間3回以上実施する。 (教務・企画総務)	今年度参加者／前年度参加者の割合が150%以上であった。 今年度参加者／前年度参加者の割合が125%以上であった。 今年度参加者／前年度参加者の割合が100%以上であった。 今年度参加者／前年度参加者の割合が100%未満であった。	A B C D	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は授業公開の他、開校3周年記念講演会も実施し、多くの保護者の方に参加していただいた。</li> <li>・家庭連絡の文書の返信回収率は60.1%であった。</li> <li>・オープンスクールでも多くの中学生に学校を公開することができた。</li> <li>・撫養キャンパスで行われた学校祭でも多くの保護者・地域の方に来ていただいた。</li> <li>・産業社会と人間の授業では多くの社会人の方に講演会をしていただき、生徒の反応も良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も地域連携を進めるとともに、地域の方を講師に迎えたり、逆に生徒が地域の中で活動する機会を増やしていく必要がある。</li> <li>・HPの閲覧数が多いのでさらにホームページを充実させていく。</li> <li>・保護者へのメール配信システムについては登録数が伸びなかったののでさらなる広報を工夫したい。</li> </ul>
		②行事案内の出欠の返信回収率を上げる。 (企画総務)	回収率が70%以上であった。 回収率が60%以上であった。 回収率が50%以上であった。 回収率が50%未満であった。	A B C D			
		③学校祭を保護者や中高生・地域の方に解放する。 (特別活動)	今年度訪問者数が300人以上であった。 今年度訪問者数が200人以上であった。 今年度訪問者数が150人以上であった。 今年度訪問者数が150人未満であった。	A B C D			
	②ホームページ等を利用して迅速な情報発信をする。	①本校からのメール配信システムの保護者登録数を増やす。 (図書情報)	保護者の登録数が80%以上であった。 保護者の登録数が70%以上であった。 保護者の登録数が60%以上であった。 保護者の登録数が60%未満であった。	A B C D	C		
		②ホームページの内容を適宜更新し、充実を図る。 (図書情報)	HPのアクセス数が500件／月以上あった。 HPのアクセス数が300件／月以上あった。 HPのアクセス数が200件／月以上あった。 HPのアクセス数が200件／月未満あった。	A B C D			
	③地域・PTA・同窓会等との情報の共有や連携を円滑にするシステムを構築するとともに、地域の人材の活用を推進する	①PTAだよりを充実させる (企画総務)	満足度が90%以上であった。 満足度が70%以上であった。 満足度が50%以上であった。 満足度が50%未満であった。	A B C D	A		
②産業社会と人間では地域との連携を行い、地域の方を講師として迎える。 (企画総務)		外部講師の数が5人以上であった。 外部講師の数が3人以上であった。 外部講師の数が1人以上であった。 外部講師の数が1人未満であった。	A B C D				



重点課題	重点目標	目標達成に向けた取り組み (担当課)	評価の観点	評価	総合評価	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方策
9 グローバル教育	①郷土の伝統・文化について理解を深める教育を推進する。	①「産業社会と人間」を通して徳島県や鳴門市の歴史・文化・産業の素晴らしさを認識させる。 (企画総務課)	郷土の歴史・文化・産業の素晴らしさを学んだ生徒が70%以上であった。 郷土の歴史・文化・産業の素晴らしさを学んだ生徒が60%以上であった。 郷土の歴史・文化・産業の素晴らしさを学んだ生徒が50%以上であった。 郷土の歴史・文化・産業の素晴らしさを学んだ生徒が50%以下であった。	Ⓐ B C D	A	・郷土の伝統文化についての理解の深化については、「産業社会と人間」の時間や、インターンシップの取り組み等から、一定の効果をあげることができている。 ・授業等の教育活動を通しての異文化理解に関して、講演会の実施や姉妹校との交流などを通して、理解が進みつつあると思われる。	・「産業社会と人間」について、これまでの成果をもとに計画を練り直し、さらに具体的に地域を理解できるように取り組んでいく。 ・異文化理解についても講演会の継続実施や姉妹校との交流の活性化を軸とし、さらに新たな活動の可能性を模索していく。
		②インターンシップや「総学」の時間を通して、地元へ根付き、貢献している産業や企業についての理解を深めさせる。 (企画総務課)	地元の産業・企業の活躍について学んだ生徒が70%以上であった。 地元の産業・企業の活躍について学んだ生徒が60%以上であった。 地元の産業・企業の活躍について学んだ生徒が50%以上であった。 地元の産業・企業の活躍について学んだ生徒が50%以下であった。	Ⓐ B C D			
	②異文化理解学習を通じて共生の精神の涵養を図る。	①授業等の教育活動を通して、海外の習慣や文化に触れ、日本の文化共通点や相違点についての理解を深めさせる。 (各教科)	世界には多様な文化があることを理解した生徒が70%以上であった。 世界には多様な文化があることを理解した生徒が60%以上であった。 世界には多様な文化があることを理解した生徒が50%以上であった。 世界には多様な文化があることを理解した生徒が50%以下であった。	Ⓐ B C D	A		
		②授業等の教育活動を通して、異文化を尊重し、自国の文化を誇りに思う姿勢を培う。 (各教科)	異文化や自国の文化を尊重する姿勢を持つ生徒は70%以上であった。 異文化や自国の文化を尊重する姿勢を持つ生徒は60%以上であった。 異文化や自国の文化を尊重する姿勢を持つ生徒は50%以上であった。 異文化や自国の文化を尊重する姿勢を持つ生徒は50%以下であった。	Ⓐ B C D			
③スポーツを通じた国際交流を推進する。	①競技を通して海外の学生と交流する機会を設ける。 (国際交流)	③国際理解に関する講演を開催し、新たな世界へ興味・関心を持たせる。	講演に対する満足度は70%以上であった。 講演に対する満足度は60%以上であった。 講演に対する満足度は50%以上であった。 講演に対する満足度は50%以下であった。	Ⓐ B C D	B		
		①競技を通して海外の学生と交流する機会を設ける。 (国際交流)	競技を通して国際交流に積極的に取り組んだ生徒が70%以上であった。 競技を通して国際交流に積極的に取り組んだ生徒が60%以上であった。 競技を通して国際交流に積極的に取り組んだ生徒が50%以上であった。 競技を通して国際交流に積極的に取り組んだ生徒が50%以下であった。	Ⓐ B C D			

重点課題	重点目標	目標達成に向けた取り組み (担当課)	評価の観点	評価	総合評価	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方策
10 学校運営体制の充実	①教職員のコンプライアンス意識の高揚をはかる	①学校活動の様々な機会をとらえて、効果的な研修の機会を設ける。	年間を通じて8回以上研修の機会を設けた。 年間を通して6回以上研修の機会を設けた。 年間を通して5回以上研修の機会を設けた。 年間を通して研修の機会が5回未満にとどまった。	A B C D	B	・コンプライアンス意識の高揚については、定期的な研修が功を奏し、一定の理解が得られていると思われる。 ・情報の共有等、危機管理体制の徹底については、基本的な事項についてはおおむね良好に機能していると思われるが、各部署での細部にわたる連絡調整については、改善すべき部分もみられた。 ・両キャンパスの連携・協働体制については、科長・キャンパス主任体制の導入により学校行事を中心に効果あげた部分もあったが、日常の業務遂行に関しては、二元的運営から脱却できない部分もみられた。	・コンプライアンス意識の高揚については、引き続き定期的研修を継続していくとともに、マンネリに陥らないよう、あなたな切り口を模索していく。 ・危機管理体制の徹底については、引き続き「風通しの良い職場づくり」のための諸方策を考え、それぞれの業務に関する共通理解が促進されるよう尽力する。 ・両キャンパスの連携等については、27年度の組織・施設の統合を受け、円滑な運営ができるよう、年度当初に諸課題を調整する。
		②研修の内容を精選し、受講する教職員の理解度を高める。	全教職員の80%以上が理解度が高まったと考えている。 全教職員の70%以上が理解度が高まったと考えている。 全教職員の60%以上が理解度が高まったと考えている。 理解度が高まったと考える教職員が60%未満にとどまっている。	A B C D			
	②危機管理態勢の徹底をはかる	①「報告」・「連絡」・「相談」の徹底をはかり、全教職員で必要な情報を共有できる体制を整える。	全教職員の80%以上が、職務に関する情報が共有できていると考えている。 全教職員の70%以上が、職務に関する情報を共有できていると考えている。 全教職員の60%以上が、職務に関する情報を共有できていると考えている。 情報を共有できていると考える職員が、全体の60%未満にとどまった。	A B C D	B		
		②「風通しの良い職場環境作り」に留意し、創造的な意見を出しやすい環境を整える。	全教職員の80%以上が、「風通しの良い職場」であると考えている。 全教職員の70%以上が、「風通しの良い職場」であると考えている。 全教職員の60%以上が、「風通しの良い職場」であると考えている。 「風通しの良い職場」であるとする職員が、全体の60%未満にとどまった。	A B C D			
	③両キャンパス間の連携を図るとともに、課題解決に向けた協働体制を確立する。	①各校務分掌の課長、キャンパス主任が連携をとり、一体的な運営に努める。	課長を中心に一体的な運営ができた。 一体的な運営ができているが、一部不十分な点があった。 不十分な点が多いが、一部では一体的な運営ができている。 一体的な運営ができていないケースが目立った	A B C D	B		
		②両キャンパス合同で取り組める効果的な活動を創造し、円滑に実施する。	活動が円滑に実施され、初期の目的を達成した。 おおむね円滑に実施できたが、一部に不十分な点のみみられた。 不十分な点も多々あったが、効果的な部分のみみられた。 活動を円滑に実施することができなかった。	A B C D			